

第11回 研究部会 報告

1 先進校視察『京都市立堀川高校』の報告

(1) 堀川高校の柱

卒業後の生徒のイメージ『自立する18歳』

その達成のために、二兎を追う (①探究活動 ②日々の学習)

①探究活動

・自分自身の内在する、「知りたい」という好奇心に始まり、それを知るため(導くため)の方法を考え、実際に手と頭を動かし、その答えに近づこうとすること。

「知りたい」と思うためには、そのこと存在を知らなければならない。また、どのように知ればよいのか、解決したらよいのかといった「幅広い教養」が必要。

②日々の学習

・「幅広い教養」を身に付ける営み。知らなかったことを知る、知りたかったことは実はこれなんだと発見も学ぶ意欲(楽しさ)への動機づけになる。「幅広い教養」を得るためには勉強が必要。そして勉強にはある程度の強制がつきもの。しかしそれだけではやらされ感ばかりになり、成果もあまり上がらない。



日々の学習と探究活動が車輪の両輪となりことに気づき、二兎を追うことで、天井のない学習意欲を起動し進路実現に向けて垂直に伸びる創造的で独創的な学びの世界を体験させる。

(2) 堀川高校の目標

・卒業時に、「自立する18歳」を育成する。→二兎を追う (探求活動・日々の学習)

社会的自立した生徒を育成する。(日々の授業や学校生活で)

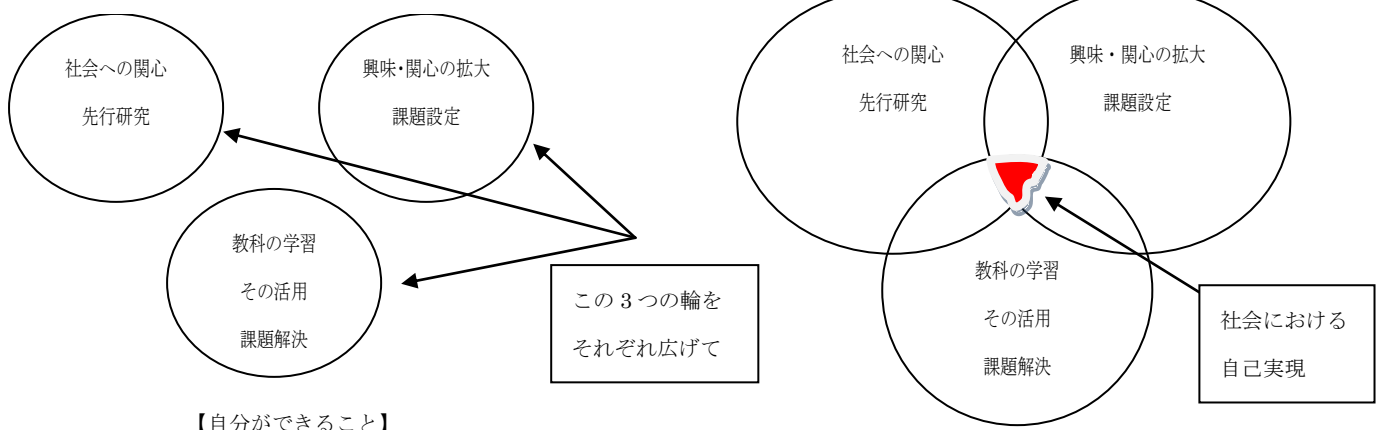
社会の中で他者と人間関係を保ちつつ、適切に依存し孤立しない。



【イメージ】

【社会で求められていること】

【自分がしたいこと】



【自分ができること】